

平成23年10月25日

英語好きな生徒を育てるために

*英語に興味を持ってくれば、英語教育の目的はほぼ達成されます。

M a s a h i r o K u d o

英語好きな生徒を育てるために

1. 英語教育の目標

中学1年生の最初の目の輝きは夢見る輝き。時が経つにつれて、目に陰りが出てきてはいないだろうか。大学入試のためと言って、英文を切り刻んだり、呪文のように唱えさせたり、暗唱させたり、試験で脅すといったようなやり方は教育というより脅育である。

教師の確かな視点、英語力、人間性が生徒の英語に対する興味をかき立て、英語好きな生徒を育てて行く。

(1) 聞くこと・読むこと

高等学校の英語は教材や生徒の学力に相当の差があり、教師に判断と工夫が求められる。4技能の調和を保つことが大切である。教科書のみでなく色々な分野の英語に触れさせる機会を与えることも大切である。

(2) 自己表現

自己表現の機会を与えることが大切である。乏しい言語材料でもそれなりの自己表現ができる。英語を読んだり、聞いたりする力が高まるにつれて、表現能力と内容が向上していく。色々な英語に多く接する機会が大切である。

(3) 異文化の架け橋

英語の教材は文化の特質を示している。英語を通して異文化を理解することは日本文化を再認識することにつながる。異文化を吸収するだけでなく、日本文化を発信してもらいたい。

2. 英語教育の基本的態度

(1) 英語を楽しむ姿勢

時間の流れをどう切り、生徒をどう動かし、教材をどう料理するか。

1時間の中に、教授者の英語教育観、英語教授法、英語力が滲み出てくる。教師が英語を楽しむ姿勢こそが生徒の英語に対する興味をかき立てる。

(2) 英語教育にビジョンを

英語教育の本来の姿を常に追求し、英語教育に対する高い見識を持つことが大切である。英語の小説、雑誌、新聞、映画等の現代英語に触れることも必要である。

(3) 多くの英語に触れる

英語力とは、短時間に多くの英語を理解を伴って読む力と、相手の言うことを理解し、同時に自分を表現する力である。この力をつけるためにはできるだけ多くの英語に触れることが必要である。わずかな英語をなめまわすように教えるのは決してよい方法とは言えない。触れる英語の良に比例して英語の感が養われるものである。

3. 教材と授業類型

(1) 授業類型を決める要因

授業の良し悪しは、生徒がどの程度英語に接するか、どの程度授業に参加しているかによって決定される。英語の授業類型は諸要因（言語学、文学、音声学、文法、文化、指導力、熱意、愛情、探究心等）が絡み合って決定されるが、教師はそれぞれの要因に対する知識と均等のとれた判断力を要求される。

(2) 授業の流れの構成

1時間の授業の流れを構成する要因は決まっていない。自分なりに考えて組み立てて他人と一味違う自分しかできない今日案を作ることが大切である。

(3)教材の構造化

教材を何度も通読すると、その特徴がわかり、その教材の中で何を教え、何を切り捨てるかが分かってくる。
教師根性を出して全てを教えようとする、生徒の関心は拡散し、印象のない授業になる危険性がある。

(4)授業と家庭学習の関係

家庭で学習した内容を基本とし、家庭学習では手の及ばない、授業でしか得られない内容を教えることによって生徒の授業への興味、関心が生まれる。教えすぎは家庭学習をする意欲と必要性を欠く原因になる。

4. 読解の心(Reading)

(1)表情のある読み

授業の中で、英文の内容が伝わるような表情のある範読を心がけ、生徒にも求めることが大切である。対話等の読みは、その人物の年齢・職業・気持ち等を考えることが大切である。

(2)「訳」中毒

教師も生徒も日本語訳がないと落ち着かない訳中毒がないか。授業がそれに終始すると、英語の英文の理解も雑になり、英語の勉強というより日本語の勉強になっていないだろうか。

(3)イメージを描く

英文を読んで、風景、登場人物の動作、年齢、性格、服装等を想像できることが読解のポイントになる。生き生きしたイメージを伝えるためには教師自身が英文を充分理解し、自分の言葉で生き生きと描写できなければならない。

(4)意識の流れに沿った読み

英文を読む時は、日本文を読む時と同じように、その内容を先取りしながら読むことが大切である。生徒の理解を促すために、「いつ」「どこで」「何が」「どうした」等の英文理解のヒントとなるような質問をすると生徒は理解しやすい。

(5)行間を読む

英文の表面的な意味のみでなく、著者のおかれている状況や心理状態まで立ち入りながら教えることが大切である。

(6)多読のすすめ

英語力は読む量と比例する。多読は英語への興味を育て、さらに単語力や構文力を養成し、読み終わったときの達成感を与え、英語の勘を育ててくれる。生徒の負担にならない、成就感のある教材を選ぶことが大切である。

(7)読解の方法 (トップダウン方式)

①パラグラフ全体を数回読み、語句の繰り返しなどを探り、**key word** をつかむ。

②**key word** を中心に **topic sentence** をつかむ。

③**topic sentence** と他の文の関係 (説明、例示、理由等) を考える。

④パラグラフ毎に **topic sentence** をつかみ、パラグラフとパラグラフの関係をつかむ。

⑤文章全体の大意、要旨をさぐる。

.....

⑦単語・熟語の意味を考える。

⑧内容の対比や言外の意味を考える。

⑨難しい表現、大切な表現をやさしい英語で教える。

⑩どうしても必要と思われる箇所を部分的に和訳させ意味を確かめる。

⑪発送の相違点や文化の違いについて説明する。

.....

⑫英文の内容を自分の言葉で表現する。

⑬英文に述べられていることに対する感想・反論・意見などを自由に述べさせる。

5. 表現の方法(writing, speaking)

英語学習は、相手の考えを耳や目を通して「理解」する分野と、自分の考えを相手に口や文字を通して「表現」する分野に分かれる。表現分野は以下の通りである。

- ・与えられた和文を英文に直す。
- ・英語を別の英語を用いて言い換える。
- ・内容を指定して、それに合う英文を作る。
- ・ドリルした例文をノートにまとめる。
- ・英文のパラグラフを読み、教師の質問に答える形で表現する。
- ・英文のパラグラフを読み、その内容を自分の英語で書きなおす。
- ・英文のパラグラフを読み、感想などを自分の英語で表現する。
- ・説明文と対話文の変換。場面を捉えて、説明文を対話文に、対話文を説明文に、直接話法を間接話法に、間接話法を直接話法に。
- ・自分の身の回りのことを英語で表現する。
- ・絵を見て、その内容を英語で表現する。
- ・日本語を読み、その内容を英語でまとめる。
- ・日本語を読み、その内容に対する感想などを英語でまとめる。
- ・身近なこと（もの）を英語でまとめて発表する。
- ・長期の休みを利用して比較的長い文を書かせる。

6. 指導の確認

(1)文法指導の問題点(grammar)

文法は言語を支える骨組であるならば、何らかの形で教える必要がある。しかし、文法指導が単なる知識の詰め込みと暗記のみで終わるのでなく、読解や表現に生かされるものでなければならない。古典文法を学ぶような感じを生徒に与えてはならない。

(2)語彙の拡大

語彙力の不足を嘆く生徒が多い。努力するのは生徒であるが、教師も生徒の努力をさせる工夫が必要である。

- ① 多くの英語を読ませることにより、語感が養われていく。
- ② 重要語を念入りに説明する。
- ③ 語源を説明をする。
- ④ 対比を使い説明する。

(3)音声指導の目標

- ① 話言葉を理解できるだけの音声上の特徴を身につけること。
- ② 音声上の特徴を正しく発音できること。

- ③書かれている文章を内容が生き生きと伝えられるような読み方ができること。
- ④音声による導入が必ずしも始めに来る必要はないが、授業の終わりに音声と内容理解が十分に融合していることが大切である。

7. 視聴覚機器の活用

CD プレーヤーの価値

- new words の発音練習
- model reading
- paragraph reading その大意をまとめさせる。
- consolidation 授業の終わりに内容の深化と干渉を兼ねて聞かせる。
- dictation
- listening comprehension
- speech 生徒の録音

8. 英語の学力向上を目指して（まとめ）

- (1) 中・高の橋渡しを念を入れて。
- (2) 学習習慣の確立を目指す。
英語の学習は毎日規則正しく。
- (3) 基礎事項を確実に。
毎日の授業を通して、基礎的かつ将来に転移のきく項目については繰り返し指導する。
- (4) 進度を考える。
早すぎる必要はないが、必要以上に時間をかける必要もない。親切人のためならず。
- (5) 内容理解をじっくりする。
読んで訳して、訳して読んで・・・というような授業ではなく、深く内容を理解できる授業を組み立てる。
- (6) 多読指導のすすめ。
できるだけ多くの英語を生徒に与える努力をする。
- (7) 表現への配慮。
生徒は表現したい。表現できる機会をできるだけ与える。試験問題の工夫を。
- (8) 英語力の定期観測を。
試験等の結果を分析し、それに応じた対策を立てることが大切である。
- (9) チームワークを大切に。
互いに個性を出しながらも、全体として、学年として目標をしっかりと立て、協力する姿勢が大切である。
- (10) 新教育課程に即した英語を研究していく。